

令和元年8月2日

豊田市議会議長 杉浦 弘高 様

産業建設委員会

委員長 杉本 寛文



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日 程 令和元年7月23日（火）～25日（木）
- 2 派遣先 23日（火） 福岡県北九州市
及び内容 紫川における水辺空間の活用

24日（水） 福岡県柳川市
駅前広場を生かしたまちづくり

25日（木） 大阪府大阪市
大阪城公園パークマネジメント事業
- 3 派遣委員 委員長 杉本 寛文
副委員長 宮本 剛志
委 員 三江 弘海 小島 政直 板垣 清志 古木 吉昭
深谷とおる 倉山 和之 杉浦 健史
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 / 川北 尚志、尾崎 あゆみ

視察報告書【1】

委員会名	産業建設委員会	委員名	杉本 寛文
視察日時	令和元年7月23日（火） 午後2時00分 ～ 午後3時30分		
視察先・概要	福岡県北九州市 人口：951,366人（R01.7.31現在） 面積：491.95km ²		
視察内容	【紫川における水辺空間の活用】		
選定理由	北九州市では「マイタウン・マイリバー整備事業」や「ふるさとの川整備事業」を通じて、歴史や小嵐山周辺の自然を生かしながら、市民に親しまれる川として紫川の整備と水辺の空間づくりを進めており、今後の本市において参考になると考えられるため。		
豊田市の現状と課題	平成28年度から、都心を流れる矢作川の活用を多様に展開し、水辺空間の魅力創出・発信を行う「矢作川水辺プロジェクト」に取り組んでいる。「多くの市民が利用する魅力ある河川空間づくり」を進めるために、先進的な取組を調査、研究する必要がある。		
視察概要	1.マイタウン・マイリバー整備事業について (1)北九州市が抱えていた問題点 ① 旧5市の対等合併による弊害として、市の核となり、求心力のある地域の整備が遅れていた。 ② 市中心部を流れる「紫川」の浸水リスクが解決されていなかった。 ③ 「紫川」により小倉のまちが分断されていた。 以上の問題点に加えて、「製鉄のまち」が、将来にわたり鉄冷えによる都市の地盤沈下が心配されていた。そのため再開発等による、200万都市圏にふさわしい、都市の顔づくりを行う必要があった。 (2)紫川を中心とした一体的なまちづくりの推進 ① 河川改修にあわせて、道路、公園等の都市基盤整備や市街地整備を一体的に実施。 ② 昭和62年建設省内4局長による認定事業。 ③ 対象面積約170ha、事業期間平成2年から26年度、河川事業は平成40年度（令和10年度）まで。 ④ 総事業費は約3,610億円、そのうち整備事業に合わせた民間の投資額は、2,670億円に上る。 (3)紫川マイタウン・マイリバー整備事業の成果 ① 平成21年・22年の豪雨においても浸水被害なし。 ② 全庁をあげた横断的組織を創設、調整権限集中により、事業の早期実現を果たした。 ③ 民間敷地と河川用地の一体整備・親水空間として市民のアイディアを生かした「水環境館」を整備した。 ④ にぎわいづくり ・四季折々のイベントを、民間主導で開催。		



評価とその理由	① 過去に大規模な水害や製鉄業による深刻な公害が発生した地域であるが、行政と民間が一体となり、都市基盤の再構築と河川改修を一体的に取り組み、200 万都市の顔にふさわしい親水区域を整備したことは高く評価できる。 ② 河川、道路、都市、住宅の 4 部門に分かれる整備事業を、計画段階においては、庁舎内に横断的組織を設置し、調整権限を集中化させ、実施段階に至ってはトップダウンによる強力なリーダーシップをもって推進したことは、縦割り行政の中では素晴らしい取組と考える。 ③ 市民のアイデアを生かした水環境館は、アクリル板を通して実際の川のながを観察でき、淡水と海水の境界線も肉眼で見える施設で、水中の魚などの生物も観察することができ、素晴らしい施設である。 ④ 屋形船、カヌー教室、オープンカフェやフリーマーケットなど、趣向を凝らした四季折々のイベントが開催されており、民間主導のにぎわい創出に貢献している。 
本市に反映できること	① 本市も矢作川の水辺の整備が進められているが、河川整備だけではなく、スタジアムを含めた中央公園の整備と豊田大橋等一体的に考えて、市民の憩いとなるエリアづくりを進める必要があると考える。 ② 矢作川の水辺利用について、本市においては「河川敷の公園」という域を出ていないが、矢作川が代名詞となるような一体的なまちづくりを推進すべきである。 ③ 遊歩道等の空間を利用し、テラスを設置するなど、市民がより矢作川に親近感を抱き、親しめるような親水区間を検討する。
その他 (意見・課題など)	① 人工の滝や高水敷に維持費がかかることを課題としてあげていたため、存続のためには財源の確保に努める必要があるとのことだった。 ② 紫川のにぎわいづくりを担うまちづくり団体は、運営費を個人・団体・企業からの協賛金、行政からの補助金で賄ってきたという。 今後継続的に活動を推進していくためには、まちづくり団体が、独自の財源を確保し、自立していくことが課題であるということだった。 豊田市においても同様であり、早期に民間導入を進める必要があると感じた。  

視察報告書【2】

委員会名	産業建設委員会	委員名	杉本 寛文
視察日時	令和元年7月24日（水） 午前9時30分 ～ 午前11時00分		
視察先・概要	福岡県柳川市 人口：67,242人（H30.1.1現在） 面積：77.15km ²		
視察内容	【駅前広場を生かしたまちづくり】		
選定理由	西鉄と柳川市が協働で「西鉄柳川駅周辺整備事業」を実施し、アクセシビリティの向上のみならず、柳川の玄関口として市民と来訪者の交流空間となる駅前広場が整備された。また、「市民WS」など市民が携わる機会を計画段階から数多く設け、まちづくりの理解を深めたこの取組は、今後の本市において参考になると考えられるため。		
豊田市の現状と課題	平成28年3月に都心環境計画を策定し、2027年までの12年間を計画期間として、名古屋鉄道豊田市駅及び愛知環状鉄道新豊田駅を中心とした約1kmの区域を対象に、『活用』と『再整備』の両輪で取組を進めている。都心を誰もが来街したくなる魅力的な拠点とするため、先進的な自治体の取組を調査・研究する必要がある。		
視察概要	1.西鉄柳川駅周辺のプロジェクトの推進 (1)プロジェクト実施の背景 ① 「柳川」という観光地の玄関口として、にぎわいと柳川らしい空間の創出が必要だった。 ② 地域住民の朝夕の送迎車両による交通混雑の対策が急務だった。 ③ 駅周辺の一体的なまちづくりのために、従来の西側だけの出入りだけでなく、東側からも出入りできる利便性の確保が必要だった。 (2)デザイン検討会議と市民ワークショップ ① デザイン検討会議には学識経験者、専門家、柳川市、西鉄が参加し平成24年1月から現在までに12回開催。 ② 大学准教授プラス専門家を交えた市民ワークショップによる駅周辺の利活用やデザインについての幅広い意見交換会が行われ、デザイン検討会議と連携を図り、市民の意見が反映されていった。 ③ ものづくりワークショップ 市民と設計者、行政、事業者らと協働でものづくりを行うプロセスを大切にしたい取組として実施され、柳川市の愛着心、将来の担い手づくり、人と人とのふれあいや親子の絆を深めることを目的に実施した。 (3)駅前広場の活用事例 ① 駅前広場の積極的な市民主体による利用促進を図るため、利用料金を安く設定した。 （基本的に営利目的以外の使用は無料）		



評価とその理由	① 柳川駅の外観は、市民の WS 中の意見から、「柳川らしい柔らかさ」を表現する、オリジナリティーのあるデザインとなった。駅周辺も地元産の石や、八女産の杉をふんだんに使われており、素晴らしい。 ② 小学生や保護者が杉のフェンスやベンチを作り駅前広場に設置している。参加した市民にとっては、その思い出とともに愛着のある駅として、語り継がれていくと考える。 ③ 西鉄柳川駅をまちの玄関口として再整備するにあたり、行政と西日本鉄道(株)がしっかりと協働できる体制と仕組みを作ったうえで、利用者である市民の意見も十分に反映できた事業として高く評価できる。 ④ 駅前整備と併せて、既存の駅西側の出入口とは反対側の未開発地域であった駅東地区の区画整理事業も行い、駅舎を線路の上にあげる改築と行政の整備した連絡通路は、駅周辺のにぎわい創出と利便性向上に大きく貢献した。 ⑤ 駅舎の階段部分の屋根は、曲線のある柳川らしい優しさを持った機能的な屋根だった。 ⑥ 市民が柳川市に誇りと愛着を持てる「駅前空間＝みんなの居場所」とするために、計画段階から市民ワークショップによる市民の参画機会を数多く持っている。そのため、整備の完了した後も、駅周辺の空間活用として、市民によるイベント開催など、多様に活用されている。 
本市に 反映できること	① 名鉄豊田市駅前周辺の整備についても、地元市民を巻き込んだ WS などの意見を反映できるようにするべきだと考えた。きちんとした専門家を入れた WS は、市民に対しての理解度も上がると考える。 ② 現在設置が拡大している豊田市産材ベンチのように、豊田市を体感できるデザインや設置物をまちの景観に取り入れるべきだ。 ③ 駅前に観光地らしくお土産の店を常設していることは大きな PR 効果があると考ええる。
その他 (意見・課題など)	① 豊田市駅周辺の整備が進行していく過程で、市民自らが考えて参加していく手法は、整備後のにぎわい創出や市民や子供たちの地域愛を育むうえでも大変有効な取組であると感じた。 ② 「WE LOVE とよた」を上げる本市においても、市民が誇りを持てる駅周辺のまちづくりができるように、官民一体となって推進すべきである。 

視察報告書【3】

委員会名	産業建設委員会	委員名	杉本 寛文
視察日時	令和元年 7 月 2 5 日（木） 午前 9 時 3 0 分 ～ 午前 1 1 時 0 0 分		
視察先・概要	大阪府大阪市 人口：2, 702, 432 人（H30. 1. 1 現在） 面積：225. 30 km ²		
視察内容	【大阪城公園パークマネジメント事業】		
選定理由	大阪市では、従来の指定管理者制度ではなく、民間主体の事業者が公園を総合的かつ戦略的に一体管理する大阪城公園パークマネジメント事業を導入している。公園の新たな管理手法を取り入れた先進事例であるこの取組は、今後の本市において参考になると考えられるため。		
豊田市の現状と課題	豊田市では、誰もが憩う快適な空間を創出するとともに、中心市街地や豊田スタジアムと連携して多世代が交流できる空間を創出することを目的に、中央公園第二期整備計画策定に向けての取組を進めている。市民の憩いの場である都市公園を創出する上で、先進的な自治体の取組を調査・研究する必要がある。		
視察概要	1. 大阪城公園パークマネジメント事業の推進 (1) PMO 導入の経緯 平成 24 年 12 月に大阪府で策定した「大阪都市魅力創造戦略」の中で、大阪城公園を重点エリアの一つに位置付け、民間事業者の柔軟かつ優れたアイデアや活力を導入し、世界的な観光拠点に相応しいサービスの提供や新たな魅力の創出を図るために、民間主体の事業者が公園全体を総合的かつ戦略的に一体管理する PMO 事業を導入した。 (2) PMO 事業とは ① 公園を一体管理し、新たな魅力向上事業を実施する民間主体の事業 ② PMO 事業者は、指定管理者制度による公園の管理だけでなく、大阪城公園の観光拠点化に向けて、新たな魅力ある施設の整備や既存の未利用施設の活用を実施する。 (3) PMO 事業の概要 ① 事業期間 2015 年 4 月～2035 年 3 月（20 年間） ② 事業者 大阪城パークマネジメント共同体 ③ 構成員 ㈱電通、読賣テレビ放送、大和ハウス工業㈱ 大和リース、㈱NTT ファシリティーズ (4) 魅力向上事業の概要 ① 民間事業者の利点を生かした利用サービスの向上 ・駐車場の整備（観光バス 50 台→94 台 普通車 0 台→171 台） ・大阪迎賓館オープン。予約制レストランとして活用 ・旧第四師団司令部庁舎を大型利便施設としてオープン。 ・森ノ宮駅前エリアに劇場型文化集客施設をオープン。 ・音楽堂事務所を PMO 事業の拠点となる総合事務所やミーティングルームとして活用。		

評価とその理由	① 一般的な指定管理制度では、指定管理者に委託費用を支払うが、このPMO事業では委託費が発生しないばかりか、PMO事業者の事業収益を公園全体の管理運営に還元している。また、事業収益の中から年額 226 百万円の固定額を事業者が市に納付する。 ② 膨大な維持管理費により、天守閣以外は赤字運営になっていた公園を民間のノウハウを活用して稼げる公園に生まれ変わらせた素晴らしい事業である。 ③ 従来の指定管理者制度とは一線を画し、民間主体の柔軟なアイデアと活力を導入し、世界的な観光地に相応しい総合的で一体的な管理運営が行われている点は高く評価できる。 
本市に 反映できること	① 大阪市では大阪城天守閣とそれに伴う駐車場の収益があるが、本市においては、特に中央公園ではそれに代わる施設は豊田スタジアムだけである。中央公園等の管理も、公園の施設の管理や整備等、技術力を持つ民間企業の活用は大いに検討すべきである。 ② 鞍ヶ池公園で進める民間導入に関しては、民間導入のノウハウによりそれぞれの施策が相乗効果となり、大阪城公園のようになることを期待する。 ③ 大阪城公園では、劇場型文化集客施設をオープンさせたため、日中から夜間まで公園を利用する市民が多い。豊田市においても公園の特性を生かした長時間の公園利用ができる取組を検討していくべきである。 
その他 (意見・課題など)	① PMO 事業導入以来、年度入館者数の最高記録を 3 年連続で更新している。平成 26 年度には年間 184 万人だった入場者が、29 年度で 275 万人と飛躍的に伸びている。実績の伴う素晴らしい取組と考える。 ② 今回の視察で、魅力ある施設の拡充により来場者数が右肩上がりとなっている点は、本来の魅力ある観光資源と新たな施策の相乗効果によるものと考ええる。素晴らしい取組である。 ③ 事業期間が 20 年と長期間である点もよく考えられたシステムであり、事業投資の回収について、短期間での回収を考えず、20 年間のうちの 12 年から 13 年くらいの期間で収支が取れることを計画できるメリットは、事業者が十分な経営戦略が持てるということで素晴らしい取組である。 ④ 豊田市を訪れる観光客や市民が、魅力を感じる公園づくりを目指すためにも、毘森公園から豊田市駅、矢作川の親水エリア、そして豊田スタジアムを含めた中央公園に至るエリアを、一体として整備していくビジョンを持つことが大切であると考ええる。